

～落葉処理の効果を十分に発揮させるためのポイント～

今年度、黒星病の病斑を例年よりも多く見かけた園地は、病原菌の密度を下げ次年度の感染リスクを減らすために落葉処理を実施しましょう。

ポイント1

草刈機やロータリーの走行路以外に落葉を残さない

- ・落葉をかき出しやすいよう、落葉が残しやすい場所を事前に除草し、落葉をかき出す

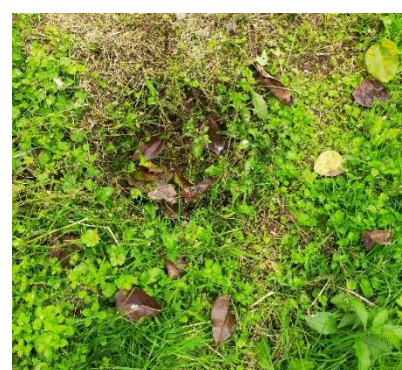
〈落葉が残しやすい場所〉



株元



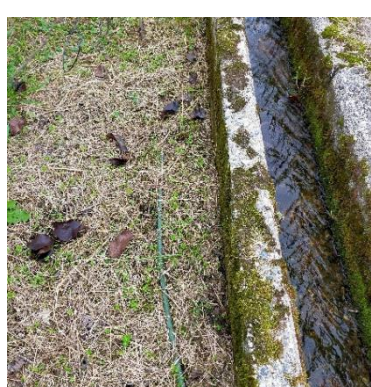
支柱まわり



園地内の窪み



園地の外周部（隣の田畑の畔）



園地の外周部（用水路）



せん定枝置き場

〈落葉を集める道具〉



熊手



ブロアー

ポイント2

原形をとどめた落葉を残さない

- 地面にへばりついた落葉は原形をとどめやすいので、粉碎前の走行路の草は短く刈り過ぎない。
- 走行路の草丈が短い場合は、草刈機の刃の高さを低く設定する。



草の上に落葉が乗っていると粉碎しやすい



2回目の粉碎を行う場合は、1回目よりも刃の高さを低くする。

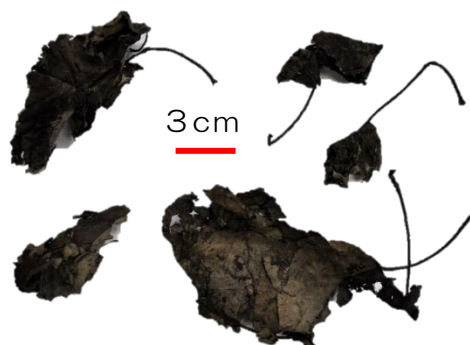
- 粉碎後に状態を確認し、原形をとどめた落葉が多く見られた場合は再度処理を行う。

<理想的な落葉処理後の地表面>



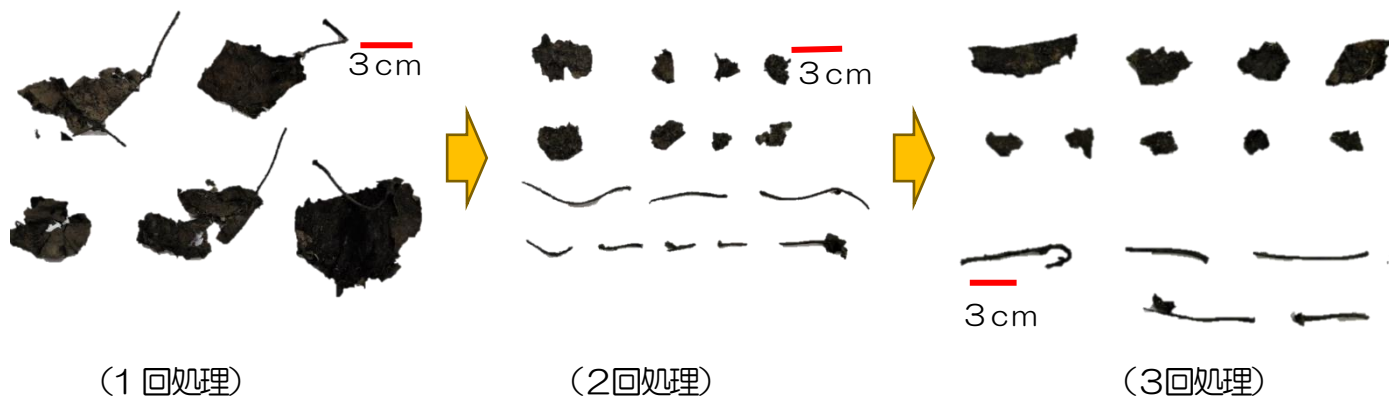
(原形をとどめた葉がみられない)

<無処理の落葉の状態(4月)>



(春になっても原形をとどめている)

<乗用草刈機による粉碎後の落葉の状態(11月に処理し、翌年4月に撮影)>



(1回処理)

(2回処理)

(3回処理)

※乗用草刈機による粉碎を時速2 km (1時間/10a) で回数分実施

落葉の写真は果樹研提供を改変